

地域交流事業

やまびこサロン

開催時間 10:00~11:00

【西鴨】お楽しみ活動★ 6月9日(木):西鴨公民館

折った和紙を絵具で染めて自分だけの「オリジナルうちわ」を作ります!
用意するもの:近用メガネ(必要な方)

【天神野】いろいろ遊ぼう♪ 6月16日(木):天神野公民館

音楽で健康増進♪折り紙コースター作り!
用意するもの:近用メガネ(必要な方)

【中河原二】たのしく食育♥ 6月23日(木):中河原二集会所

簡単!健康レシピ紹介!



手話教室

日時:6月21日(火)9時~10時

場所:やまびこ人権文化センター 和室



【前回のレポート】音がなければ困るものとして「クラクション、防災無線放送、雨音、風音、インターホンの音、タイムセール放送、電話予約」などがあがりました。これらをふまえ、12月の発表会ではシチュエーションごとの手話に加え、「手話ができなくても意思疎通する方法」を披露してはどうか、という案が出ました。

ウイルス感染状況によってセンター事業を変更または中止する可能性があります。あらかじめご了承ください。

合同サロン「みんなで交流会」のお知らせ♪

日時:8月4日(木)10:00~

場所:やまびこ人権文化センター(小鴨コミュニティセンター)

毎月3地区の公民館で開催している「やまびこサロン」ですが、8月は3地域の参加者が一堂に会し「みんなで交流会」を行います!ピザ釜を使ったピザ焼き体験や、フレイル予防のストレッチを企画しています。ぜひお集まりください(^^)



~困りごとや人権侵害 ひとりで悩まないで~

悩みごと、生活での困りごとはありませんか?
ひとりで抱え込まずに、どんなことでもご相談ください。

倉吉市役所人権政策課(電話 22-8130)

差別落書き・差別発言などに遭遇しましたら、
倉吉市人権政策課もしくはやまびこ人権文化センターにご連絡ください。

やまびこ人権文化センター(電話 28-4265)



人ある限り人権を



発行 やまびこ人権文化センター

住所 倉吉市中河原 772-6 電話・FAX 0858-28-4265

E-mail yamabiko@ncn-k.net

小鴨地区人権問題講演会

「ネット人権侵害と部落差別の現実」

日時 6月29日(水)19:00~21:00

場所 小鴨コミュニティセンター
(倉吉市中河原 772-6)テーマ ネット人権侵害と部落差別の現実
~全国水平社創立100年と今後の課題~講師 川口 泰司 さん
一般社団法人 山口県人権啓発センター 事務局長共催 小鴨地区同和教育研究会
小鴨コミュニティセンター
やまびこ人権文化センター

講師の川口泰司さん



日本で最初の人権宣言と言われている『水平社宣言』が、1922年3月3日の全国水平社創立大会で読み上げられてから今年で100年になります。この間、多くの取り組みによって、近年は人権意識の高まりがあり、差別を許さないという市民の活動があります。その一方で部落差別をはじめとしてさまざまな人権侵害が起こっています。

とりわけ、インターネット上では差別情報や差別書き込みが氾濫しています。そうしたインターネット情報をもとに差別言動を行う事象も発生しています。私たちの周辺に差別は根深く存在しているのです。

インターネット上の人権侵害がどうなっているか。インターネットの差別情報によって、私たちの周辺・現実社会でどんなことが起こっているか、考えてみませんか。

新型コロナウイルス感染防止のため、参加人数を制限する場合があります。あらかじめご了承ください。

◆やまびこ人権文化センターでは新型コロナウイルスの感染対策を徹底したうえで
できる限り事業、貸館を行います。ご理解とご協力をお願いいたします。

ハンセン病問題は私たちの問題！

h < ±_ ð´ e Ò ¢ œ ± ° - ³ • Ü Ü Ü Ü u
 h 1 ø Û ø ^ Ô œ ± ° - ³ • Ü Ü Ü Ü u
 h ² È Û É œ ± ° © ž Ò ³ • Ü Ü Ü Ü u
 h _ r ñ Ñ " Ò ´ e Ò ¢ œ ± ° - ³ • Ü Ü Ü Ü u
 h 0 Û ° È Ì Á · @ ´ ´ - È Ò ´ ³ • Ü Ü Ü Ü u

4G \$\$[c^8 ² Š @ uZE 8\$\$¼ •\$\$¼ \f?WZv
 G : KS#Õ q† Á â - à\$\$H*... c6xCI8} €ZArKS QKZ\$\$¼ @
 WS(v I)}_c ~v j9\ë0b_^K‡[8rM

一九五二年に
 療養所へ入所したNさん

Hi S € b 2s
 S HI S %3 A \$
 HPHÓHI 1ª M
 \$ª Q ^]
 8ð b) #
 d [c HI 4b ^ #"
 ^ C ¼ > † HI
 p @ O i 5 \$U
 d T K } *... 7

父親が療養所に入所した男性

男性は小学校で「患者の子」といじめられた。地域の子どもの会
 の行事に呼ばれることもなかった。母は何度も学校に掛け合ったが収
 まらない。小5の時、母は泣いて男性に謝った。「病気の父ちゃん
 と結婚してごめん」。その母も50歳の若さで亡くなった。
 一時ははじめも母の早世も父のせいだと恨んだ。だが、父は男性
 の結婚式を含めて冠婚葬祭には一切出席できず、実家に赴くことも
 許されなかった。次第に「父は患者を園に隔離する国策の被害者だ
 ったのではないか」と思うようになった。

ハンセン病と鳥取県「無らい県運動を促進した過去」

ý v%4 _> 8Zc } 8\$\$S>& Á â - à\$\$S>'H*... \$!#Õ"á c² \[vV) []
 KS Gb"g#b5•bSu ýv %4c Á â - à\$\$Sb\g\$ª8ð d 6xª#ÕI
 _ :ývE †,(\$ÜK %4Æ ~iH*... b°d†•4 Kr KS Qb) Ý
 :ýv%4c !"}8%44 · 4)B">/•\^~rKS
 Gb|:_ :ýv%4c \ b Á â - à\$\$H*... bID7x7³;Ç_ 'WZ!" }
 8%44 · †-ìKZA S4#d @6~rM Gbo%,†v\ _ Á â - à\$\$Se
 8ÿ †8¼ iION Á â - à\$\$e8ÿ †*f <•Ð!!\KZ F8Xb¥_?•}‡G
 \I‡T Á â - à\$\$SID7x7³Ibo%,\1 8b & †'gK Z8rM

碑文

昭和初期「癩予防法」が施行されると、鳥取
 県は無癩県運動を開始し、ハンセン病患者を全
 国の療養所へ強制的に送り隔離した。
 とりわけ瀬戸内海の小島にある長島愛生園に
 は、昭和三十年代までに鳥取県から百八十名
 以上の患者が送られた。愛生園の浜辺には、偏
 見・差別によって家族や生まれ育った故郷との絆
 を断ち切られ、望郷の思いでたえず患者の姿
 があった。
 戦後ハンセン病は治癒する病気となり、鳥取県
 は全国に先駆けて、里帰り事業、知事の謝罪、
 遺族のもとへの遺骨引き取り支援などを実施し
 たが、故郷に帰ることができた人は殆どなく、
 多くの本県出身者の遺骨は、全国の療養所の納
 骨堂に眠ったままである。
 県民の保健、衛生という大義の名のもとに、終
 生隔離され、遺骨になっても故郷に、また家族
 のもとに帰れないという不条理があつてはならな
 い。ハンセン病問題を教訓とし、二度と再びこの
 ような重大な人権侵害が繰り返されないよう
 すべての県民が誓い、ここに「ハンセン病強制隔離
 への反省と誓いの碑」を建立する。
 平成二十年六月

無らい県運動 (むらいけんうんどう)

1930 °æFÜG 1960 °æFÜFÜFáFöF,
 æFÜG FéG FöFpFÄSHFÖ.Æªª8ð dFÜ
 7x7³G% IDp FáfëFöF, :% H*...G
 H*...GM 2FçG FÖFÆRÖFÖF'
 G FiF, M+á w ,FüG G G]G•GIG•\$\$
 Fp% 0i D ØF÷G FÖG F, Ø VFü7fG
 FöFÖG G]G•GIG•\$\$H*...G" w ,FÜ\$Í0
 œF,1™ 9FüFüG 3ü FçFö H*...G" I
 FéG FáföG" á šFçFöFÖGFçFí

3 ù 3 O ° . I Ì
 Á â - à\$\$Sc }8,æ _ª M•G\[2sG~ m2ŠbŽ`&,) @ÐÄM•^]b\$U "g@ rM
 }8,æ @\$Í0bI€•r[c ~>f0vI_æ)FC FÄG \$\$ \? O/œb 8 \ €}€rKS
 ¥•_>E•Á â - à\$\$;Çc 1907 °D b2Š \$Ä£75 ½6ö « Ý ó ?} r~rM :%M•
 H*...†7x7³p M•Sub†g\$ª8ð d† ZSb[M
 QKZ IŠ^ \$\$[6~ª †75D \b \ 4JE}€ MmZbH*...†\$ª8ð d_7x7³M•
 |: uS \$Ä£752 @ 1931 °_ Bg KrKS 4G \$\$[c^8 @\$Í\$UKxM8 /2Ac4G M•
 Y% ^É \ I€ Z È]v†âXG\@0ÁI€N •'x ÷Np)/ †I DI€rKS
 IŠ^ \$\$ Y b\$\$ \8f€Z 8SÁ â - à\$\$Sc }8,æbª Šc uZE8G\@f?
 ~rKS w ^ . @6ä\$ÍI€ \$µM•\$\$¼ \^~ rKS Q€[v7x7³;Çc)FArKS
 1953 °_c ±Äb\$Í\$UÑ±1Ö ^]†#.#ä_ H*...bu) x¥ †&—L•80% v•<S 7x7³†
 IiM• }8£752 I \ 5 I€ rKS \$ª8ð dÆ[bID> •'x ÷Np)/v)E)FK >4"
 x ~\b) †)/S€Z) #Ö †\$ª8ð d Æ[4#HM^] Š)/^Ç ' u @)FArKS
 Á â - à\$\$SGÿ*...xQb ~ -|*...b4 ·_|~ 1996 °_ }8£752 @ ëFI€ rKS@
 6x°)F 8Sj9xë0bc^C^ WZ8rO‡

『人間回復の橋』 (おくながしまおおはし 邑久長島大橋)

「ハンセン病から学んでいない」 熊本・菊池恵楓園 入所者

‡Ò<'rñÑ•ÐÓ-´±éÈ´ ~´
 Òtji• - - ~Ä".2•13~³Ö
 .°tÑ!°éÜ°~©ž•±úÒÖ"u
 2~´, •i•Û "•t üúó- æ
 ä+ù´ÑÓ t´±´...•RÖtg.[•
 { ´•Ö^ž,t 3ù3O•^x7
 ±Ç-´~÷j©u´w, 3ù3O"Ò
 ôÈ Ü°•³•u

Á â - à\$\$Sb \g \$ª8ð d 6xª#ÕI4Z,œÁI @6
 •!)^Æ•bá 6xª\PEb•u†) jSTMXb4(\$ª8ð
 d°d...x ^)6ö€...b6x°b8ª8 @ "80[f?} 17
 °bSv†5 a 1988 °_ëE}€rKS >& ,£%4>'

この橋は、『隔離する必要のない証』『療養所入所者の
 人間回復のシンボル』とされたが、本当に“人間回復”が
 必要なのは、差別してきた私たちなのかもしれません。

ハンセン病回復者の思い

/ " a • §~³~´(±È 3 ù 3
 ObÆÛØ „žª³•Ñ•´/ " a.
 -´°ÛÖÓÒ•°~´Ä •ušG
 ±œ•Ñ•³... aÛ .ÓIž³•°Ä
 •u! ´´È´,t´ìÛ ¿&± ´r
 ñÑÛ8 ´Ä •u
 Á â - à\$\$SGÿ*...b%obî8_&¾SU @]
 : 'Ä<Z8Cb? @1"8ÿ_ ^•b[c^8[
 K{:?

ハンセン病学習をして・・・ 中学1年生の感想 (2004年)

NW\1*mS8\iWZ8SÁ â - à\$\$Sb
 G\@1*m}€Z]?WS[M Á â - à\$\$S
 bj9cîWS|~f]?WS[M ~_
 "@†ŽWZC€^?WS~ Û/_/œE^?
 WS~M•j9v8E^8G\T\î:E
]j9†f]CIOS;Óv0ÁO^8\î
 8rKS S@±A8o] Á â - à\$\$Sbë
 0bîj9@?ICgWZ8rM
 GbÁ â - à\$\$Sbj9ië0bc ÒGG[
 Á â - à\$\$SbG\†GKc#.0žKSpÛ#Ö?
 }^CO•\î8rM QbSu_c O•
 xðëcN€^] 33Æ^j9?}^CKZ
 8CmAT\î8rKS